

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○選択問題での正答率が高い。 ○小説など、授業で取り組んでいる問題は正答率が高い。 ●記述問題の無回答が多い。 ●条件に合った作文に課題がある。 ●資料から情報を読み取ったり、改善点を見つける問題の正答率が低く、問題の意図を読み取る力や情報を適切に処理する力に課題がある。 ●論理的に考えることに課題がある。	・理由や根拠を示して説明をする活動を多く取り入れる。 ・授業で200字要約や200字作文を継続して行う。 ・語彙の獲得のために漢字の学習やことわざ、故事成語、慣句の学習を継続して行う。
数学	○1,2年生で繰り返し学習した形式の問いは正答率が高い。 ●基礎基本が十分に身に付いていない生徒が多い。 ●数学用語が定着していない生徒が多い。 ●根拠を述べて説明することができない生徒が多い。 ●問題の読み取りに課題がある。 ●関数を理解できていない生徒が多い。	・数学用語を用いて授業をすすめる。 ・根拠を示して説明する場面を増やす。 ・小テスト、タブレット等を用いて基礎基本の定着を図る。 ・説明する機会を増やすために、ペアの活動やグループ活動を増やしていく。 ・家庭学習でもドリル学習を行い、基礎基本の定着を図る。
理科	○元素記号の知識は定着していた。 ●選択問題は解けているが、記述式の問題の解答率が低い。 ●知識どうしをつなげて思考することが苦手な生徒が多い。	・探求の流れを意識した授業展開する。 ・知識と思考を結びつける場面を多く設定する。

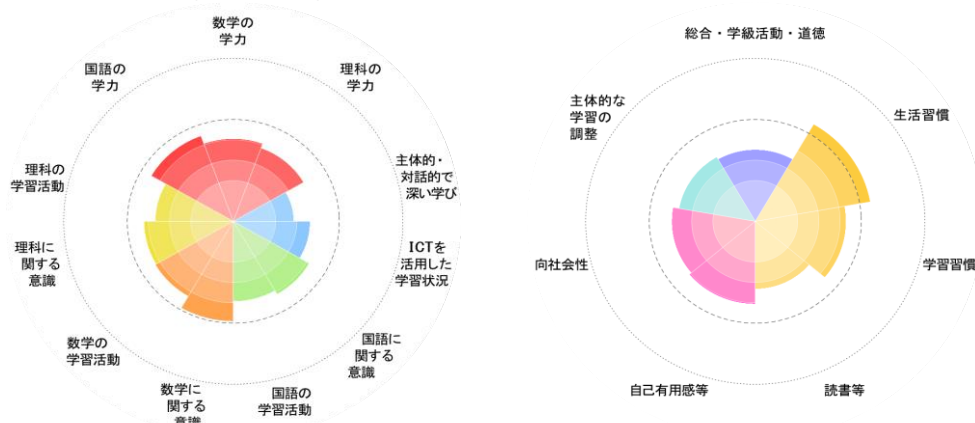
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感は全国平均並みであり、将来人の役に立つ人になりたいと思っている。 ○将来の目標や夢をもっている生徒が多い。 ●平日の家庭学習時間が少ない生徒が多い。 ●課題解決に向けて自ら考えたり、話し合う活動を通して考えを深めるなど、思考を深められていると感じていない生徒が多い。 ●ICT機器の使用頻度が少ないと感じている生徒がやや多い。	・校内で取り組んでいる課題学習を確実な取組にしていく。 ・話し合い活動の取組方を見直し、対話的で深い学びにつなげていく。 ・ICT活用の有用性や取組の実践例を教員間で共有し、積極的な活用を促していく。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・話し合い活動の仕方を見直し、生徒の思考力を高める取組を検討していく。 ・基礎基本の定着を図るため、ドリル学習や確認テストを継続的に実施する。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

50

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

